CODE 海外災害援助市民センター
2022 年度　事業計画

【1. 海外災害（地）への救援活動事業】

項目	番号	プロジェクト名	開始時期	終了予定時期
●継続プロジェクト	1	アフガニスタン救援プロジェクト	2003 年	2026 年度末
	2	中国・四川救援プロジェクト （四川大地震、新型コロナウイルス感染症）	2008 年, 2020 年	2022 年度末
	3	2022.2.24 ウクライナ・ロシア支援	2022 年	2023 年度末
●終了予定プロジェクト	4	インドネシア・ロンボク島地震、スラウェシ島地震津波、スンダ海峡火山津波	2018 年	2022 年度末
	5	トンガ火山噴火災害	2022 年	2022 年度末

●継続プロジェクト

事業名	1-(1) アフガニスタン救援プロジェクト
実施日時	2003 年～継続中
実施場所	アフガニスタン・カブール州ミールバチャコット県
受益対象者の範囲及び予定人数	ミールバチャコット地域の 2500 世帯。 これまで本事業の融資で直接裨益した農業従事者は 550 世帯（2021 年 3 月時点）。
実施内容	【2022 年度の計画】 ●ぶどう畑再生支援 アフガニスタンのタリバン暫定政権の状況を鑑みて以下を実施する。 ・レーズンの輸入販売 F さんによると、現在、輸出することは可能だとのことだが、輸出量が 9kg に制限されていることや価格が上昇しているという。現在、国際送金の状況を確認しているが、状況が許せばレーズンの輸入を再開する。 ●タリバンによる人道危機 ・タリバン暫定政権後のアフガニスタンの状況をレポート「アフガニスタンからの贈り物に感謝」の発信（これまでに 45 本発信）を続ける（村井理事） ・F さん家族の国外退避などの動向を引き続き見守り、サポートする。 そして、ウクライナ危機の日本政府の対応をアフガニスタンの国内外避難民へも

	拡充するよう外務省や JICA および NGO ネットワークへ働きかける。 ・S さんへの有機野菜などの食糧提供を継続し、日本での状況を見守る。 また、S さんを囲んだ食事会または、勉強会を未来基金の学生たちと開催する。 ・村井理事にアフガニスタンの文化や暮らしについて講演してもらう機会（寺子屋または、若者と国際協力など）を作り、実施する。 ◎2022 年度の主な動き 5/10 コープ深江「アフガニスタン―20 年（仮題）」で講演（村井理事） 5/16 S さんに野菜届け（村井理事、山村さん、吉椿） 5/22 S さんを囲む食事会を開催（村井理事、山村さん、山内さん、立部さん、吉椿） 7/12 コープ須磨「アフガニスタン―20 年（仮題）」で講演（村井理事） 8 月～9 月　若者と難民について考えるセミナー第 2 弾（近畿ろうきん協賛）の開催
事業の目標と終了予定時期	CODE が輸入するレーズンの総量の目標を 1t に定めている。2020 年度末時点（2021 年度はタリバンによる政変で輸入できなかった）での総輸入量 570 kgで、残り 430 kgを輸入するにはあと 5 年が必要となる事から終了予定を 2026 年度末とする。ただし、2026 年度末時点で継続の必要性があれば理事会での協議を経て決定する。

事業名	1-(2)　中国・四川省地震救援プロジェクト/新型コロナウイルス感染症支援
実施日時	2008 年 5 月 13 日～継続中
実施場所	四川省地震被災地域
受益対象者の範囲及び予定人数	四川省北川県光明村村民約 700 名および周辺住民 湖北省武漢市民
実施内容	【2022 年度の計画】 1. 四川大地震 ・光明村の状況をフォローアップ コロナの状況を見つつ、四川への渡航を再開し、光明村周辺の観光開発（集いの広場や竹林、小川などの整備）の状況、村民委員会による農家楽再開の動きをフォローする。 ・日中 NGO ボラティア研修交流事業の再開 本事業では、これまでに 29 名（うち 4 名は国内）の学生など若者が四川の被災地で学ぶ機会を提供してきた。このうち、中山迅一さん（NPO 法人まなびと）、堀之内（成安）有希さん（CODE 理事）、柳瀬彩花さん（追手門学院大学 4 年生）、原田梨央さん（長崎大学大学院グローバルヘルス研究科）などは、今も CODE と連携、協力していただいている。 2022 年度は、コロナ禍など現地の状況を見つつ、2023 年度末に実施し、高校生、大学生などの若者が海外の被災地で直に学ぶ機会を提供する。

	・現地 NGO との連携 張さんたちと今後も継続的に NGO や災害復興、防災、IACCR の感染症対応の学び合いの場を持つ。 2.新型コロナウイルス感染症 2020 年の武漢で新型コロナウイルス感染症が爆発的に広がったことから上述の張さんや大阪大学の渥美教授らと共に国際アライアンス「IACCR」を立ち上げ、各地の取り組みや経験を共有してきた。2022 年度も IACCR の動きに連携し、メンバー国（14 の国と地域）と情報を共有していく。 ◎2022 年度の主な動き 8 月 オンラインスタディツアー for Youth（関西 NGO 協議会）で中国の張さんたちと連携（予定）
事業の目標と終了予定時期	2018 年度で四川大地震後に、CODE が伝統木造建築で建設した老年活動センターを活かした「農家楽」の運営を軌道に乗せること、そして現地の NGO との防災・減災の学び合いに感染症も加えた学び合いの場を積極的に作っていく。また、国際アライアンス「IACCR」を通じて、感染症だけでなく災害支援のネットワークを充実させていく。終了予定時期は 2022 年度末にしているが、必要であれば理事会の議論を経て再考する。

事業名	1-(3) 2022/2/24 ウクライナ・ロシア支援
実施日時	2022 年 2 月 24 日～継続中
実施場所	兵庫県内
受益対象者の範囲及び予定人数	兵庫県内に避難してきたウクライナ・ロシアの人たち数十人
実施内容	2022 年 2 月 24 日、ロシア軍によるウクライナ侵攻が起きたことで、5 月末時点で兵庫県内にはウクライナから 20 世帯（40 名）の避難者の方々が来神している。 CODE は、2021 年度末からウクライナだけでなく、ロシアの状況を注視し、情報収集を行ってきた。淡路島に住むロシア人イリーナさんを通じて、神戸市内に避難してきたウクライナ人の避難者の方をご紹介いただき、5 月からは「MOTTAINAI やさい便」を直接ウクライナから避難してきた方々に届け始めた。 現在、東灘区や長田区、須磨区の 4 世帯 6 名の避難者の方に「MOTTAINAI やさい便」を配達している。その際にヒアリングを行い、避難者の困りごとの中から中古自転車の募集を行い、2台届けることができた。自転車は、丹波の方などから無償提供していただき、賛助会員の山本健一さんが野菜とともに届けていただいている。また、言葉の問題もあり、現在 3 名の方から通訳ボランティアの申し入れもあり、今後ヒアリングなどに協力していただく。

	2022 年度は、この「MOTTAINAI やさい便」でクラウドファンディングを実施し、支援の継続を行う。クラウドファンディングは、理事だけでなく未来基金の学生たちの含めたワーキンググループ（室﨑代表、宮本副代表、徳山理事、岸本理事、村井理事、岸本理事、山村さん、黒瀬さん、原田さん、立部さん、頼政さん、吉椿）で進めていく。 また、ポーランドで支援活動にあたっている日本人 S さんを通じて現地の情報も収集している。この最大の災害である戦争におけるウクライナとロシアの情勢を CODE としてどのように捉え、理事会での協議を経て、どのように対応してくかを考え、実践していく。 ◎2022 年度の主な動き 4/7 日本 YMCA 同盟「ウクライナ避難者支援団体情報・意見交換会に参加（吉椿） 4/8 JPF「ウクライナ人道危機から一カ月半緊急シンポジウム」に参加（吉椿） 4/22 神戸新聞ウクライナ・難民の取材（吉椿） 4/28 NGO-JICA 協議会勉強会「ウクライナ支援：最新動向と連帯可能性」に参加（吉椿） 大学コンソーシアム神戸「教えて岡部先生、一緒に考える。学生・留学生のためのウクライナ・ロシア情勢」を聴講（村井理事、吉椿） 5/12 ヒューライツ大阪「ウクライナ侵攻-現地取材したジャーナリストに聴く」を聴講（村井理事、吉椿） 5/16 東灘区、長田区の避難者へ野菜配達（村井理事、山村さん、吉椿） 5/19 「MOTTAINAI やさい便」クラウドファンディング会議を開催（室﨑代表、宮本副代表、徳山理事、岸本理事、村井理事、岸本理事、山村さん、黒瀬さん、原田さん、立部さん、頼政さん、吉椿） 5/20 神戸新聞ウクライナ支援の取材（村井理事、吉椿） 東灘区の避難者へ野菜配達（吉椿、上田記者） 長田区の避難者へ野菜配達（村井理事） 5/21 関西 NGO 協議会総会でウクライナ・ロシア支援を報告（吉椿） 6/1 Yahoo「ウクライナ避難民支援ネットワーク」とミーティング（吉椿） 6/2 須磨区の避難者へ野菜配達（村井理事、山村さん、吉椿） 6/6 須磨区の避難者へ自転車と野菜を配達（山本さん、村井理事） 6/9 長田区の避難者へヒアリング（通訳 K さん、村井理事、山村さん、吉椿）
事業の目標と終了予定時期	ウクライナの戦争が長期化し、日本に残る方々もしばらくは祖国に戻ることができないことを想定して、終了は 2023 年度末とする。

●今年度終予定プロジェクト

事業名	1-(4) インドネシア救援プロジェクト （ロンボク島地震・スラウェシ島地震・スンダ海峡火山津波）

実施日時	2018 年 7 月 29 日～
実施場所	インドネシア共和国ロンボク島・スラウェシ島・スンダ海峡（ジャワ島西部）
受益対象者の範囲及び予定人数	ロンボク島ジェングラン村リアス地区の住民約 670 名 スラウェシ島シギ県 JonoOge 村や Langaleso 村の子どもたち約 100 名 スンダ海峡（ジャワ島バンテン州）の被災地の住民とインドネシア建築家協会の専門家達
実施内容	2021 年度は、新型コロナウイルス感染症の状況を見ながら、現地カウンターパートのエコさんと協議する。 スラウェシ島地震支援では、中断していた伝統建築によるコミュニティスペースの建設が再開し、まもなく完成予定であるとラーマットさんから連絡があった。 ロンボク島地震支援は、エコさんによると、その後政府が再建プロジェクトで鉄筋コンクリートのプロトタイプの方針を出し、木造などの他のデザインを申請するのは難しい状況になっているとの報告があった。エコさんは、ロンボクの建築家仲間を通じて木造建築の可能性を探ってみるとのことであった。しかし、インドネシアは、新型コロナウイルス感染症の感染者が東南アジアで最多の状況が長く続いていたこともあり、ワクチン接種の状況を見ながらプロジェクトを進めていく事をエコさんと協議している。
事業の目標と終了予定時期	インドネシアでも新型コロナウイルスの感染が拡大していることから、現地の状況を見つつプロジェクトを実施し、今年度内に終了予定。

事業名	1-(5)トンガ火山噴火災害
実施日時	2022 年 1 月 15 日～継続中
実施場所	トンガ王国トンガタプ島ヌクアロファ周辺
受益対象者の範囲及び予定人数	トンガタプ島の農家たち約 100 名
実施内容	●2022 年度の計画 カウンターパートの農業経営者 Minoru Nishi さんから、契約農家（最大時約 100 名）が農作物を再度作付けするための資材（種、肥料など）の提供や農家のための安全装備（マスク、ブーツ、オーバーオール、手袋）、農機具（鍬、じょうろ、熊手、電気柵用のソーラー）などが農業を再開するために必要だとの要請があり、資金を送金した。なお、コープこうべハート基金から 50 万円を拠出していただいた。 その後、Nishi さんから連絡があり、農家たちとの再協議の結果、この時期に必要なスイカ栽培用のウォーターポンプを 2 機購入する事になった。今後の追加支援は難しい状況から同事業は終了する。
事業の目標と終了予定時期	2022 年度内に終了予定

【2. 人材育成事業】

事業名	2-(1) 事務局体制の充実化
実施日時	2013 年 11 月～継続中
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	数名
実施内容	CODE の事務局業務を担ってくれていた立部知保里さんが兵庫県立大学大学院博士課程を修了し、アジア防災センターで勤務する事となった。よって CODE 事務局は村井理事および細川さんの力も借りながら当面、吉椿一人で運営し、次の担い手が見つかるまで岸本理事（CODE レターなど）や学生、ボランティア、アルバイトで業務を分担していく。具体的には、Web ページは船曳（澤）さんに、インタグラムを通じた若者への広報に原田梨央さん、イベント運営などに未来基金の山村太一さん、山内優さん、黒瀬天孝さん、にご協力いただく。また、立部さんにも無理のない範囲でアルバイトとしてサポートしていただく。 また、この数年、家賃の 2/3 と会計の細川さんの人経費半額を被災地 NGO 協働センターが 2/3 負担してもらっていたが、2021 年度から CODE がそれぞれ半額負担することに変更した。また、現在、被災地 NGO 協働センターの財政状況も厳しくなっていること、ウクライナ・ロシア支援（「MOTTAINAI やさい便」の活動含む）を担当していることもあって、村井理事（事務局担当）の人経費の半額を当面 2022 年度のみ CODE で負担することとする。（一応、1 年を期限とし、その都度議論する。） 2022 年度は、「MOTTAINAI やさい便」のクラウドファンディングを活用して、運営面だけでなく、CODE 未来基金、ウクライナ・ロシア支援を相互に盛り上げていく。 ＊主な動き 4/26　CODE 理事会 5/11　CODE・協働センター事務局ミーティング（村井理事、細川、増島、頼政、吉椿） 5/19　クラウドファンディング・ワーキング（室﨑代表、宮本副代表、徳山理事、村井理事、岸本理事、立部さん、原田さん、山村さん、黒瀬さん、吉椿） 6/3　会計監査（飛田監事、中川監事、村井理事、細川）

事業名	2-(2) NGOことはじめ
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	当 NGO スタッフはじめ、学生や若者数十名。

実施内容	例年、村井、榛木両理事に NGO について、基礎編、実践編の 2 回の講義を行っていたが、新年度は事務局の体制上実施が難しい状況であるため、実施しない。

事業名	2-(3)「〇〇と国際協力」（＊食と国際協力から名称変更）
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	一般
実施内容	2021 年度からリニューアルした「〇〇と国際協力」を年 1～2 回開催する。テーマは「農業、文化、芸術、スポーツ」など。 2022 年度は、「〇〇と国際協力」では、未来基金の若者を主体とした座談会を開催する。CODE の次世代を担う若者たちは、より主体的に NGO に関わってもらえるような場づくりをめざす。 2022 年度は、以下の通り実施する。 （予定） ◎第 3 回「〇〇と国際協力」　＊2-(4)と重掲 若者と国際協力～青年海外協力隊と農業（仮） 日　時：2022 年 7 月～8 月 開　催：Zoom によるオンライン 語り手　：杉田かなえさん（ジコモファーム代表） 森本莉永さん（豊岡市地域おこし協力隊、青年海外協力隊待機者） 参加対象：一般、未来基金の若者たち ＊主な動き 5/25　杉田さん、森本さんと打ち合わせ（黒瀬さん、吉椿）

事業名	2-(4)CODE 未来基金
実施日時	2015 年 4 月 1 日より
実施場所	-
受益対象者の範囲及び予定人数	災害 NGO で働く若者、または将来的に災害 NGO で働く事を目指す若者、若干名。
実施内容	●2022 年度の計画 【全体方針】 1. 国内をベースとしたプロジェクトの継続と学びの場の創出

	新型コロナウイルス感染症の状況を見ながらではあるが、基本的には2021年度から実施している国内での農業プロジェクトやコロナ支援プロジェクトや「MOTTAINAIやさい便」をベースに活動する。また、農業×コロナ支援（食育および子ども食堂支援）、農業×国際協力、アフガニスタン支援（難民問題）×在留外国人支援など、各プロジェクトのテーマを横断しながら活動を展開させたり、学生と共に学びを深める場を設けたりするなどしていく。 2.参加者のすそ野の拡大 現在中心になって活動している学生らが4月以降、就職活動、教育実習、部活動などで忙しくなり未来基金に積極的に関わることが難しくなるため、新しい参加者を募る必要がある。現在参加している学生に知人・友人を誘ってもらうほか、CODEが受託している大学の講義で関心の高そうな学生などにも声をかける。 【各プロジェクトの計画】 1.丹波農業プロジェクト 2022年度は丹波でのフィールドワークやオンラインの勉強会を引き続きベースとしつつ、新しい展開を模索する。 〇丹波フィールドワーク 大学生の春休み中である3月下旬に第4回を開催したが、現役学生は1名のみであた。「ムラとマチの奥丹波」代表の荻野さんとの調整を黒瀬さん、山村さんに担ってもらう。 2022年度は丹波の地域をより深く学べるよう、「ムラとマチの奥丹波」以外の住民の方からも話を聞く機会を設けたい。また、農業と国際協力のつながりをより深く学べる場を学生に提供していく。 ＊5/14-15 「ムラとマチの奥丹波」の田植えに参加（立部さん、杉田さん、吉椿） 〇豊岡・丹波篠山フィールドワーク 豊岡市地域おこし協力隊として農業に取り組んでいる森本さん、中田さんや丹波篠山市地域おこし協力隊の杉田さんの協力のもと、4月以降に豊岡や丹波篠山でのフィールドワークを企画する。豊岡や丹波篠山（ジコモファーム）の農業に触れることで丹波での学びを深めるとともに、学生たちと同年代で農業や地域づくりに取り組む森本さんや杉田さんの活動から学ぶ。 〇国際協力と農業をテーマにした勉強会「〇〇と国際協力」　*2-(3)と重掲 丹波篠山市で農業を営む杉田さん（舞子高校卒、青年海外協力隊経験者）と森本さん（青年海外協力隊待機者）をゲストとした勉強会を開催する。国際協力に関

	心がある学生が多いことから、ゲスト二人の対談やディスカッションを通じて国際協力と農業のつながりや生き方について学び、考える。 ＊ 5/25　杉田さん、森本さんと打ち合わせ（黒瀬さん、吉椿） 〇食育イベント 食育イベント開催に協力いただいたレンタルスペース&Aの河野さんより、よい企画なので第2回をやらないかとの提案を受け、1月に開催を計画していたが、コロナの感染再拡大のため中止となったので、感染の状況を見ながら再度開催を計画する。また、学生からは、対象を子どもに限定せず、より大きな食育ワークショップを企画したいとの声も出ている。学生を中心に新しい内容のイベント企画も検討していく。 2.「MOTTAINAIやさい便」プロジェクト 前年度も実施した「MOTTAINAIやさい便」は今年度も継続する。賛助会員の山本健一さんの協力のもと、子ども食堂や在留ベトナム人留学生・技能実習生、アフガニスタンからの退避者に野菜を提供してきたが、学生の都合やコロナの感染再拡大防止のため、それぞれの配達先でじっくり話を聴く状況には至っていない。 2022年度も引き続き野菜配達の支援を行いつつ、在留外国人の状況や子ども支援等について学生と共に学ぶ機会を設ける。&Aとは農業プロジェクトの食育イベントでも協力し、交流を深める。今年度も引き続き上記の場所へ野菜を届けるだけでなく、アフガニスタンからの退避者Sさんやウクライナまたはロシアからの避難民の方へも野菜を届け、一人ひとりの声を拾い、寄り添う活動につなげる。なお、野菜提供者に元CODEの理事村上さんやCODEの正会員である橋口さんも加わって頂いている。その他にも新聞記事を見て、宅配便で野菜を送って下さった方もおられる。今年度は、クラウドファンディングを活用して本プロジェクトを盛り上げていく。 また、下記のアフガニスタンやウクライナ支援とも関連し、難民について学生と学ぶ中で、在留外国人の問題とも関連付けながら考えられるようにする。 ※活動費はコープこうべの「やさしさありがとうひょうごプロジェクト活動」の助成金を申請中。（プレゼンは7月7日） ＊主な動き 5/16　ウクライナの避難者へ野菜配達（村井理事、山村さん、吉椿） 5/16　Sさんに野菜届け（村井理事、山村さん、吉椿） 5/19　「MOTTAINAIやさい便」クラウドファンディング会議を開催 （室﨑代表、宮本副代表、徳山理事、岸本理事、村井理事、岸本理事、山村さん、黒瀬さん、原田さん、立部さん、頼政さん、吉椿）

	5/20　神戸新聞ウクライナ支援の取材（村井理事、吉椿） ウクライナの避難者へ野菜配達（吉椿、上田記者） ウクライナの避難者へ野菜配達（村井理事） 5/22　Ｓさんを囲む食事会を開催（村井理事、山村さん、山内さん、立部さん、吉椿） 6/2　ウクライナの避難者へ野菜配達（村井理事、山村さん、吉椿） 6/9　ウクライナの避難者へヒアリング（通訳Ｋさん、村井理事、山村さん、吉椿） 8月～9月　若者と難民について考えるセミナー第2弾（近畿ろうきん協賛）の開催 3.アフガニスタン支援との連携 前年度の成果を踏まえて、学生からはこのような学びの場に引き続き参加したいとの声が挙がっている。 2022年度は、Ｆさんの状況を見ながら、学生とＦさんで直接メッセージのやり取りができるようにして、日本とアフガニスタンの若者同士のつながりをつくり、現地の生の声を通じた交流と学び合いを図る。並行して、難民について学生向けの勉強会等も随時実施して学びを深めていく。 ＊主な活動 5/16　Ｓさんに野菜届け（村井理事、山村さん、吉椿） 5/22　Ｓさんを囲む食事会を開催（村井理事、山村さん、山内さん、立部さん、吉椿） *8/7、9月　若者と難民について考えるセミナー第2弾（近畿ろうきん協賛）の開催 4.ウクライナ情勢を踏まえた難民セミナーの開催 今年度も近畿ろうきんよりセミナーへの協賛依頼が来ている。昨年度アフガニスタンの政変を受けて2度開催した難民セミナーの後継として、日本政府の安アフガニスタンやウクライナからの避難民受け入れに関してより深く学ぶために、全国難民弁護団連絡会の弁護士や難民専門のNGOの方を講師に2回シリーズで開催する。 ＊CODE寺子屋2022【若者と難民について考える】　＊4-(5)と重掲 「今、世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか ～ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマーから見える日本～」（仮） 日　時：2022年8月～9月 場　所：対面（第1回）、オンライン（第2回） 内　容：**第1回**「海外からの難民、避難民に対して市民・NGOは何ができるのか」（仮） 日　時：2022年8月7日（日）10:00～12:00 開　催：神戸まちづくり会館　（対面とオンラインも併用） 講　師：折居徳正さん（パスウェイ・ズジャパン代表理事）

	田中惠子さん（RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク　共同代表） **第 2 回**「日本における難民の保護は適正か ～ウクライナ・ミャンマー等から見える日本の保護のあり方」 日　時：2022 年 9 月 16 日（金）18：00～20：00 開　催：オンライン 講　師：渡邊彰悟さん（全国難民弁護団連絡会議　弁護士）

【3. 災害関連情報の収集及び発信事業】

事業名	3-(1) 災害情報サイト（CODE World Voice）の運営
実施日時	随時（2002 年からの継続事業）
実施場所	SOHO 形式や当センターなど
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数の災害情報を得ている人たちすべて
実施内容	「被災地の市民の暮らしを知ることを通じて、防災や平和への意識向上を図る」ことが目的である。これまで CODE のプロジェクト地をよりよく知ってもらうため、また、災害時の情報収集のために、随時 Reliefweb（UNOCHA が運営する、支援機関のレポート投稿サイト）やその他メディアからの翻訳を CODE ウェブサイトで紹介してきた。 現在、HP などの英語翻訳ボランティアは 1 名、新年度も引き続きボランティアの力を借りながら英語の情報発信（HP、FB）を充実させる。

【4. ネットワーク構築事業】

事業名	4-(1)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学（社会防災特別講義Ⅱ）
実施日時	9 月から 1 月まで、毎週火曜日第3限
実施場所	神戸学院大学ポートアイランドキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 40 名
実施内容	① 「現代社会学部」の後期授業「社会防災特別講義Ⅱ」での講師派遣 前年度同様に後期（火曜 3 限、全 15 回）の講義を吉椿（10）、斉藤容子さん（3）、頼政良太さん（2）を講師としてオムニバス形式で講義を実施する。 ＊社会防災特別講義Ⅱ　授業計画 第 1 回（9/20）ガイダンス（吉椿） 第 2 回（9/27）CODE とは（吉椿） 第 3 回（10/4）異文化理解と援助（吉椿） 第 4 回（10/11）日本の災害復興（頼政さん）

	第 5 回（10/18）寄り添いとつながり（吉椿） 第 6 回（10/25）海外の復興制度（斉藤さん） 第 7 回（11/1）災害フィールドワーク（吉椿） 第 8 回（11/8）災害と SDGs（吉椿） 第 9 回（11/15）災害とジェンダー（斉藤さん） 第 10 回（11/22）平時の地域防災（頼政さん） 第 11 回（11/29）災害と貧困（吉椿） 第 12 回（12/6） 援助の行き届きがたい被災地支援の方策（吉椿） 第 13 回（12/13）海外のコミュニティ防災（斉藤さん） 第 14 回（12/20）若者と国際協力（吉椿） 第 15 回（1/17） まとめ（吉椿）

事業名	4-(2)《関係機関からの受託事業》 親和女子大学（国際ボランティア論）
実施日時	4 月から 7 月まで、毎週月曜日第2限
実施場所	親和女子大学キャンパス、その他課題提出型授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 80 名
実施内容	2020 年度前期（月曜 2 限、全 15 回）より「国際ボランティア論」の講義を受託している。講師は、坂西卓郎さん（PHD 協会）（5）、斉藤容子さん（関西学院大学）（4）、吉椿（CODE）（5）の三者で担う。2022 年度も同様に行う。 ＊【国際ボランティア論】授業計画 第 1 回（4/11）ガイダンス（梶山さん） 第 2 回（4/18）国際協力概論（坂西さん） 第 3 回（4/25）ボランティアとは（吉椿） 第 4 回（5/9） 世界の難民問題（坂西さん） 第 5 回（5/16）日本の難民問題（坂西さん） 第 6 回（5/23）国際協力と多文化共生①（坂西さん） 第 7 回（5/30）国際協力と多文化共生②（坂西さん） 第 8 回（6/6） 防災と国際協力（斉藤さん） 第 9 回（6/13）緊急支援・復興支援（斉藤さん） 第 10 回（6/20）ジェンダー視点から見える途上国災害（斉藤さん） 第 11 回（6/27）ボランティアから専門家へ（斉藤さん） 第 12 回（7/4） NGO とは（吉椿） 第 13 回（7/11）国際協力と若者（吉椿） 第 14 回（7/25）SDGsと災害（吉椿） 第 15 回（8/1） 異文化理解と援助（吉椿）

事業名	4-(3)《関係機関からの受託事業》 神戸学院大学(ボランティア論Ⅱ)
実施日時	4 月から 7 月まで、毎週火曜日第1限
実施場所	神戸学院大学ポーアイキャンパス、その他オンライン授業
受益対象者の範囲及び予定人数	現代社会学部の学生約 20 名
実施内容	2020 年前期(火曜 1 限、全 15 回)より始まった「ボランティア論Ⅱ」の講義を吉椿が担っている。2022 年度も、ゲストスピーカーとして頼政良太さん(4)、斉藤容子さん(3)にも講義していただく。 ＊【ボランティア論Ⅱ　授業計画】 第 1 回(4/12)ガイダンス(吉椿) 第 2 回(4/19)災害ボランティア(吉椿) 第 3 回(4/26)災害ボランティアセンター(頼政さん) 第 4 回(5/10)避難所運営とボランティア(頼政さん) 第 5 回(5/17)避難所ワーク「HUG」(斉藤さん) 第 6 回(5/24)復興支援とボランティア(頼政さん) 第 7 回(5/31)足湯ボランティア(吉椿) 第 8 回(6/7) 災害ボランティアのネットワーク(頼政さん) 第 9 回(6/14)ボランティアとフィールドワーク(吉椿) 第 10 回(6/21)海外のボランティア①中国(吉椿) 第 11 回(6/28)海外のボランティア②フィリピン(吉椿) 第 12 回(7/5) 海外のボランティア③イタリア(斉藤さん) 第 13 回(7/12)ボランティアと若者(吉椿) 第 14 回(7/19)災害とジェンダー(斉藤さん) 第 15 回(7/22)NGO とボランティア(吉椿) ＊その他、7/2、7/9 社会貢献学入門で講義(吉椿)

事業名	4-(4)《関係機関からの受託事業》 関西 NGO 協議会
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	① 講師派遣 前年度と同様、派遣依頼があれば行う。

	＊今年度の予定 8 月　オンラインスタディツアー　for Youth（関西 NGO 協議会）で中国の張さんたちと連携（予定） 12 月　ワンワールドフェスタ for Youth で講義（吉椿） 1 月　龍谷大学国際特別講義「国際 NGO 論」で講義（吉椿）

事業名	4-(5) 国内のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	①　関西 NGO 協議会の活動への参加 今年度も、組織理事として理事会や常任理事会への出席、KANSAI-SDGs市民アジェンダ、ワンワールドフェスタ for Youth などのイベントへの参加を継続し、関西の市民社会や NGO の一員として連携する。その他、ウクライナ情勢に関しても加盟団体との情報交換会なども実施する。 ＊今年度の主な動き 4/4　常任理事会に出席（吉椿） 4/5　NGO-JICA 協議会コーディネーター会議に出席（吉椿） 4/14 JICA 関西と関西 NGO-JICA 協議会の打ち合わせ（栗田さん、吉椿） 4/28　NGO-JICA 協議会勉強会「ウクライナ支援：最新動向と連帯可能性」に参加（吉椿） 5/6　理事会に出席（吉椿） 5/21 関西 NGO 協議会　総会（ウクライナ情報交換会）に出席（吉椿） 7/2　高橋前事務局長慰労会に参加（吉椿） 12 月 ワンワールドフェスタ　for Youth でワークショップ、ブース出展（吉椿） ②　コープこうべとの連携 例年通り、総代会への出席、講演会、報告会やイベントなどへの積極的な参加、災害時のハート基金運営委員会との連携を継続する。また、資金調達のワーキンググループとしても、コープこうべさんとの協力関係を深めていく。 ＊主な動き 5/10 コープ深江「アフガニスタン―20 年（仮題）」で講演（村井理事） 6/15　コープこうべ第 102 期通常総代会に出席（吉椿） 7/12 コープ須磨「アフガニスタン―20 年（仮題）」で講演（村井理事）

③ 近畿ろうきん

2018 年度より近畿ろうきんの社会貢献預金「笑顔プラス」の寄付先団体に CODE は選出されており、年間約 25 万円の寄付をいただいている。

また、毎年、セミナーの開催の協賛いただいている通り CODE の理念に共感していただいている。2022 年も、ウクライナやアフガニスタン、ミャンマーの情勢を踏まえた難民セミナー（2 回シリーズ）を以下の通り開催する。

◎CODE 寺子屋 2022【若者と難民について考える】　　＊2-(4)と重掲

「今、世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか

～ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマーから見える日本～」（仮）

日　時：2022 年 8 月～9 月

場　所：対面（第 1 回）、オンライン（第 2 回）

内　容：**第 1 回**「海外からの難民、避難民に対して市民・NGO は何ができるのか」(仮)

日　時：2022 年 8 月7日 10：00～12：00

開　催：神戸まちづくり会館　（対面とオンラインも併用）

講　師：折居徳正さん（パスウェイ・ズジャパン代表理事）

田中惠子さん（RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク　共同代表）

第 2 回「日本における難民の保護は適正か

～ウクライナ・ミャンマー等から見える日本の保護のあり方」

日　時：2022 年 9 月 16 日（金）18：00～20：00

開　催：オンライン

講　師：渡邊彰悟さん（全国難民弁護団連絡会議　弁護士）

＊その他の主な動き

5/12　難民セミナーの打ち合わせ（吉椿）

5/25　近畿ろうきんラジオカフェ「KYOTO HAPPY NPO」に出演（吉椿）

5/30　難民セミナーの打ち合わせ（KNC 栗田さん、吉椿）

6/17　笑顔プラス寄付先団体合同報告会に出席（吉椿）

④ 若者の団体とのネットワーク

災害時などに CODE と連携してきた若者の団体（ワカモノヂカラプロジェクト、神戸大学 PEPUP、アイセック神戸大学委員会、NPO 法人まなびと、神戸大学学生救援隊、大学コンソーシアムひょうご神戸、NPO 法人しゃらくなど）との関係をより深め、未来基金を通じて若者どうしのネットワークも充実させていく。また、SDGsをキーワードにした若者のネットワーク（ワンフェス for Youth やジャパンユースプラットフォーム）とも協働していく。その他、未来基金に関わるプロジェクトで、上記団体と連携していく。

	⑤ JPF、JANIC、JICA 関西、人と防災未来センター、ひょうご支え合い募金などのネットワークとも引き続き災害時の情報交換などで連携していく。

事業名	4-(6) 海外のネットワーク構築事業
実施日時	随時
実施場所	各地
受益対象者の範囲及び予定人数	未定
実施内容	・フィリピン / NGO ネットワーク ABAG（セブ市） ・中国 / NGO 備災センター（新安世紀教育安全科技研究院）（四川省成都市） ・国際アライアンス「IACCR」（事務局：中国四川省成都市、14 の国と地域） ・ネパール / シェルパ村落開発改善委員会（ソルクンブ郡グデル村シャーレ地区） ・インドネシア/ エコ・プラウォトさん（ドゥタ・ワチャナキリスト教大学） （ジョグジャカルタ特別州） ・バングラデシュ/サイドゥール・ラーマンさん（バングラデシュ防災センター：BDPC） 上記のネットワークとの関係をそれぞれの事業や新型コロナ関連を通じて深めていく。

【5.「市民による災害救援」に関する調査・研究事業】

事業名	5-(1) CODE 寺子屋学習会
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	役員、事務局員、CODE 会員、関係者、一般
実施内容	◎CODE 寺子屋 2022【若者と難民について考える】 *2-(4)、4-(5)と重掲 「今、世界で起きている事に私たちはどう向き合うのか ～ウクライナ、アフガニスタン、ミャンマーから見える日本～」（仮） 日 時：2022 年 8 月～9 月 場 所：対面（第 1 回）、オンライン（第 2 回） 内 容：**第 1 回**「海外からの難民、避難民に対して市民・NGO は何ができるのか」(仮) 日 時：2022 年 8 月7日 10：00～12：00 開 催：神戸まちづくり会館 （対面とオンラインも併用） 講 師：折居徳正さん（パスウェイ・ズジャパン代表理事） 田中惠子さん（RAFIQ 在日難民との共生ネットワーク 共同代表）

	第 2 回「日本における難民の保護は適正か ～ウクライナ・ミャンマー等から見える日本の保護のあり方」 日 時:2022 年 9 月 16 日 10:00～12:00 開 催:オンライン 講 師:渡邊彰悟さん(全国難民弁護団連絡会議　弁護士)

【6.「市民による災害救援」に関する啓発及び広報事業】

事業名	6-(1) 賛助会員の拡大
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所、その他
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	●今年度の計画 ・賛助会員の拡大 今年度は、クラウドファンディングなどでより多くの方に CODE や未来基金を知っていただくことに力を注ぎ、丁寧な会員・寄付者管理につとめ、会員・寄付者の拡大をはかる。 ・リーフレットのカラー刷新 岸本理事を中心に広報ワーキングでリニューアルを進める。 ・SNS を活用した広報 CODE レター発行など従来の紙ベースものに合わせて、学生ボランティアさんの協力でフェイスブック、インスタグラムなどの SNS を積極的に活用していく。学生ボランティアの原田梨央さんなど未来基金の若者たちにもサポートしていただく。 ・コープこうべや近畿ろうきんのネットワークの活用 コープこうべや近畿ろうきんの持つ労働組合などのネットワークを活用し、CODE や未来基金の活動をより知っていただく。 ・今年度も「ソーシャルアクションリング」のバナー広告を継続する。 (年 15000 円の広告収入) ・Gochiso というサイトで、登録しているレストランの食事代のポイント還元を寄付に充てる仕組みも活用する。

事業名	6-(2) 救援プロジェクト報告会及び講師派遣
実施日時	随時
実施場所	全国各地

受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	① 他団体からの講師依頼による派遣は以下の通り。 ＊神戸学院大学、親和女子大学の連続講義は、別途 4-(1)、4-(2)、4-(3)に記載 4/28 桃山学院高校生に講演（吉椿） 5/10 コープ深江「アフガニスタン―20 年（仮題）」で講演（村井理事） 大阪ワイズメンクラブ定例会で講演（吉椿） 5/20 関西学院大学災害復興学 A で講義（吉椿） 5/25 近畿ろうきんラジオカフェ「KYOTO HAPPY NPO」に出演（吉椿） 6/17 近畿ろうきん笑顔プラス寄付先団体合同報告会で報告（吉椿） 6/25 兵庫県立大学「防災の国際協力」で講義（吉椿） 6/29 大阪大学人間科学研究科共生学系で講義（吉椿） 7/2 神戸学院大学社会貢献学入門で講義（吉椿） 7/9 神戸学院大学社会貢献学入門で講義（吉椿） 7/12 コープ須磨「アフガニスタン―20 年（仮題）」で講演（村井理事） 8/18 甲南大学福祉法政策夏季集中講座 「自然災害と社会福祉」 で講義（吉椿） 9/30 長岡崇徳大学看護学部で講演（吉椿） 12 月 大阪大谷大学「国際社会学 B 国際協力論 B」で講義（吉椿） 12 月 関西国際大学「国際防災協力」で講義（吉椿） 1 月 龍谷大学「国際 NGO 論」で講義（吉椿） 1/12 相生高齢者大学で講演（吉椿）

事業名	6-(3) 機関誌及びインターネットによる情報発信
実施日時	機関紙は年 3 回発行 メーリングリスト、SNS は随時発信（積極的にツイッターの利用を行う）
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	・機関紙は年 3 回、各号 1500 部を発行し、約 1000 部を発送する。 ・インターネットは不特定多数
実施内容	・機関誌：CODE レターは、年 3 回、4 月、7 月、12 月頃に発行予定。 ・メーリングリスト、FACEBOOK：逐次、災害救援レポートを発信。 ・ツイッター、インスタグラム：学生ボランティアさんによって逐次発信 今年度も、CODE レター、ML、SNS を活用して広報を充実させる。 HP の英語版の更新も進める。

【7. 組織体制に関して】

事業名	7-(1) 組織体制に関して
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	① 役員改選 2022 年度は役員改選の年ではないが、団体理事の神戸 YMCA の松田道子理事が退任し、西田勉さん（国際事業統括）が後任となる。 ③ワーキンググループによる組織基盤の強化 ・CODE 設立 20 周年記念事業 2022 年度は、CODE 設立 20 周年の年となる。ワーキンググループで来年 1 月を目途に開催予定の 20 周年記念行事の内容を検討する。 ・「MOTTAINA やさい便」クラウドファンディングのワーキング ＊2-(4)と重掲 2022 年度は、ウクライナ・ロシア支援、アフガニスタン支援、CODE 未来基金などの事業と横断して進めている「MOTTAINA やさい便」プロジェクトをクラウドファンディングを活用して幅広く広報し、支援者や資金の獲得を図る。*2-(4)を参照 ＊クラウドファンディングのワーキングメンバー 理事：室﨑代表、宮本副代表、榛木理事、徳山理事、岸本理事、村井理事、岸本理事 学生：山村さん、黒瀬さん、原田さん ボランティア、事務局：立部さん、頼政さん、吉椿 ・5/19 「MOTTAINAI やさい便」クラウドファンディング会議を開催 ◎CODE ワーキンググループの役割と担当 1. ガイドライン：榛木理事、松田理事 2. 人材育成：宮本副代表理事、堀之内理事 3. 資金調達：岸本理事、中川理事 4. 広　　報：堀之内理事、西海理事 5. 支援プログラム：災害発生後、その都度開催 ＊室﨑代表理事、村井理事、山口理事は全部門にかかわる。（2021 年度末段階）

【8. その他本会の目的達成の為に必要な事業】

事業名	7-(1) CODE・AID および認定 NPO 法人に関して
実施日時	随時
実施場所	CODE 事務所
受益対象者の範囲及び予定人数	不特定多数
実施内容	2011 年度の理事会での議論を経て、CODE AID の設立をめざしてきた。また、2019 年度より認定 NPO 法人取得に向けて今中一壽税理士のご協力をいただき、取得団体、神戸市の担当部局、認定取得相談窓口団体（市民活動センター神戸）などへ訪問、ヒアリングを行ってきたが、理事会での「長期事業計画を立てて将来的には認定を目指すべき」という指摘を踏まえつつ、事務局の負担などを鑑みて新たな申請に関しては少し様子を見ることとなった。